

令和5年度 第3回 射水市教育振興基本計画策定懇話会 会議録

(日 時) 令和5年11月14日(火) 15:02~16:50

(場 所) 射水市役所 401会議室

(出席者) 委 員：成瀬喜則、藤井徳子、高畠章司、中島博美、川腰喜久雄

浅村豊、漁幸子、小竹信成、櫻野栄子、中神知佐子(10名)

事務局：16名

協議事項

(1) 第2回射水市教育振興基本計画策定懇話会会議録

(質疑応答)なし

(2) 第2回会議委員意見の対応について

(質疑応答)なし

(3) 第2期射水市教育振興基本計画(素案)について

*資料に基づき事務局説明

(質疑応答)

【委員】P3 基本的施策の項目カッコの前に基本的施策の表示は必要か？

【事務局】表示は必要ない。削除する。

【委員】P2 基本理念中「人が持つ」、P3 基本理念中「愛着をもち」について「もつ」を漢字で表記するときは手に持てるものとしている。

【事務局】全体を見ながら精査する。

【委員】P4 取組の基本方針中「一人ひとり」について、県の指導の重点や学習指導要領では「一人一人」漢字表記である。

【事務局】射水市は「一人ひとり」としている。

【会長】「子ども」の表記は？

【事務局】P5 現状と課題中「子供の問題～」「子供が自己調整～」については、県のプログラムからの引用のため漢字であるが、それ以外は「子ども」としている。

(「ども」はひらがな)

【委員】P 4 現状と課題中「子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び」について、協働的な学びは教え合う学び合うでは足りない。全国学力テストでは「子どもたち同士が教え合い、子どもたち同士が考えを深め広める」としている。

【会長】全部を説明せず、「子ども同士の協働的な学び」としてはどうか。

【委員】P 3 2 現状と課題中「経験」「体験活動」について、経験は能動的、体験は主観的な言葉の意味合いがあるため、「経験・体験」がよい。また、「道徳心」については、道徳は歴史を学ぶことから道徳心が芽生えるため「道徳心を歴史に学び」とするのはどうか。

【委員】体験活動は、道徳性や社会性の芽生えのみと捉えられてしまうことは、問題である。健康な心・体、自立心、思考力、それらも体験活動からの芽生えかと思うので、誤解のない表現がいい。

【会長】現時点で、事務局に検討をお願いすることはできない。委員で決めなければならない。出来れば具体的な言葉を提案してほしい。

【委員】施策の方向性のところで、幼児期にとって一番大事な「主体的な遊び」という言葉が入っていない。主体的な遊び体験を通して非認知能力を育むことが幼児教育である。その教育で自己肯定感が育まれていく。「非認知能力をはじめ」ではなく、「非認知能力の育成をはじめ」がよい。

現状と課題から取り組み内容まで、縦の繋がりであれば、例えば「家庭の繋がり」を通すとしたら、現状と課題のところに「体験経験」があるので、取組の基本方向のところで「園生活や遊びを通じ」の後に、「様々な環境と関わり豊かな体験を通して」と上から受けていく文言を入るとか、取組内容の1行目にも「主体的な活動が十分確保され、幼児期に必要な体験が得られるよう」というふうに繋がりと読んでいて違和感がない。

【会長】全体の構成を変えることは現時点では難しいので、会長一任としてもよいか。

【委員】P 3 5 参考指標に訪問研修等を受けて能力の向上に取り組んでいる割合を入れてもよい。また質問だが、P 3 5 取組内容中「幼保連携型認定こども園」とあるが、幼保連携型限定なのか。

【会長】割合の統計を取っていなければ入れることは難しい。

【事務局】幼保連携型は市の方針であるが、状況を考慮しながら記載している。

【委員】P 1 1 用語解説中 2 「(学習診断尺度調査)」は「(学級診断尺度調査)」である。P 2 0 参考指標の特別支援学級の担任を経験した教員の割合の目標が30%の根拠はあるか？

【事務局】今後3割程度の教員が特別支援を担当していくことを仮定として、令和10年度の目標としている。

【委員】P 3 2 基本的施策（8）幼児教育の推進で小学校から中学校への連携が書かれていない。

【会長】連携は必要だが、全てを盛り込むことが出来ないので幼保小にスポットを合わせている。

【副会長】P 3 2 基本的施策（8）幼児教育の推進の施策の方向性は書き直しになるのか？

【会長】書き直しになるかを含めて考える必要があるが、言葉が入っているか入っていないかを言い出すより射水市としてどこに重点を置くかが重要である。

【委員】P 8 取組内容中二つ目にある「新刊本紹介」の「新刊本」はなくてもよい。P 2 1 取組の基本方針中、「また、」の前にスペースがある。P 2 8 参考指標中「文武科学省」は「文部科学省」の誤り。P 3 5 参考指標中、取組の内容で「リモート交流」とあるが、あえて「リモート」にする必要はない。「幼児の就学時健診を利用した小学生との交流」とあるが、就学時健診を学校をまとめて一斉に行う方針であるので就学時健診では交流が出来なくなる。他の学習の場では交流できる。

【委員】P 4 2 ~ 4 3 において、生涯学習活動がコミュニティセンターでの活動ばかりになっている。現場ではボランティアで行うこともあり苦心している。生涯学習・スポーツ課、市民活躍・文化課、地域福祉課でも独自の企画をしている。もっと市独自の魅力ある企画に取り組んでほしい。

【会長】企画は継続性がないため、意見はこの内容に集約されていると思う。文面を少し広めて書くことはできるか。

【事務局】「コミュニティセンターを中心とした活動の推進」とする。

【委員】P 4 6 参考指標中、子ども会の開催回数の説明で図書館は何館あるか記載した方がよい。コミュニティセンターは27館と記載がある。

【事務局】記載する。

【委員】P 4 9 参考指標中、新湊博物館の入館者数について目標が高いのではないか。

【事務局】誰もが足を運べる企画展や道の駅周辺構想もあるため、強い思いで目標を定めた。

【委員】学校内の問題は、学校以外での福祉や専門機関と連携を図り解決しているのか。

【事務局】児童相談所や警察などと情報共有している。

【会長】問題は昔と比べて複雑多岐化しているので、現在は学校だけで解決できない。他機関との連携は行っている。

【委員】P 4 8 埋蔵文化センターは活気がないように思われる。

【事務局】地域のイベントや夏休み期間に体験教室などを開催している。通常開館はしておらず、埋蔵文化財の発掘調査で出土したときのみ作業している。一般の方の来館のために月に2回開館している。令和4年度の開館日数が80日程で、来館者は560人である。

【会長】P32 基本的施策(8) 幼児教育の推進は全面的に書き直すことは難しいと思うが、例えば施策の方向性を文面に対応できるかを含めて検討できるか？本計画の素案については11月定例教育委員会に諮るので、積み残しを早急に対応しないといけない。12月市議会定例会に報告することを踏まえると、非常に短期間の確認になるので、今日の意見を踏まえた最終案につきましては、私に一任いたただきたい。

その他

第4回会議日程 令和6年2月7日(水)午後3時から